

「わにのおじいさんのたからもの」 つづきがあったら・・・

音読でもたくさん聞いていただいた「わにのおじいさん」の学習で、子供たちがお話の続きを書きました。どの子も、もくもくとお話の続きを書いていた。いくつかの子供のお話を抜粋して、紹介したいと思います。お子さんの書いた文も国語ノートにプリントとして貼ってありますので、ぜひご覧ください。

おにの子は、わにのおじいさんのところにもどってこう言いました。
「おじいさん、ぼくはたいへんだっただんです。とうげをこえ、けもの道をよこぎって、つりばしをわたって、岩あなをくぐりぬけて、やっと×じるしのところへたどりついたんです。」
「そうかい、それでどうだったかい。」
「空に夕やけがひろがっていて、きれいでした。」
「えっ、夕やけじゃなくて、石の下にあるんじゃないよ。」
おにの子はおどろきました。
「えっ夕やけじゃないの？石の下にあったの？」
「そうだよ。」
「えっせっかく、行ったのに。」
「まあ、いいじゃないか、きれいな夕やけが見られたんだから。」
「うんー・・・」
おにの子はさみしそうに言いました。
「元気出せよ！」
とわにのおじいさんがいうと、
「うん！」
と言って、おにの子は家に帰って話しましたとさ。
それから、おにの子は、たからものを見つけたゆめを見ました。おしまい。
小川よしと

おにの子は、わにのおじいさんのところにもどりました。
わにのおじいさんはまっていた。わにのおじいさんは、
「たからものはどうだったかい？」
と言いました。
「きれいな夕やけが見られてよかったよ。」
おにのこはこたえました。
わにのおじいさんは、心の中では（それはたからものじゃないよ。）と思いました。でも、きれいな夕やけが見られたんなら、それでいいだろうと思いました。
夕方がきえて、夜になりました。おにの子はつかれてねてしまいました。
つぎは、わにのおじいさんがたびに出ました。わにが行くと、わにのたからものをとるやつがあらわれました。そのとき、おにの子がたすけてくれました。わるいやつはにげました。のどがかわいてしまいました。そこには川がありました。川の水をのみました。
「おいしい。」
と言ったら、つぎはおながへりました。川に魚がいたので、たべました。魚がおいしいので、元気が出ました。また、たびに行きました。このままたびはつづきます。おしまい。
丸はし心

わにのおじいさんのところへ行ったら、おじいさんはねていたけど、夕やけのことを話したので、思わず大声でこういいました。
「たからものをみたよ！」
おじいさんもおきて、こういいました。
「見てきたのかい。」
「うん。たからものは夕やけでしょ。」
「夕やけじゃないよ。」
「えっ。」
とおにの子はいい、わにのおじいさんは
「もう一回いくのはつかれるから、休んでからいけばいい。」
と言いました。
「うん。」と言い、休んでからがけの上に行きました。手でほって、はこを見つけて、あけたら、お金が数えきれないほどありました。あつめてぼうしに入れたら、ちょうど入って、わにのおじいさんのところに行ってみせたら、
「よかったね。」
とわにのおじいさんは言いました。おしまい。
長しまあおい

かけ算九九 がんばっています！

算数の2年生の学習では特に大切になる「かけ算」の学習に入っています。先日、「かけ算九九がんばりカード」というピンクの紙をお配りしました。子供たちには取組の方法について話をしていますが、2年生の終わりまでには、順九九、逆九九、バラ九九がすらすら唱えられるようになることを目標としています。ご家庭でもご協力をお願いいたします。

かけ算九九がんばりカードの取り組み方

- ① 毎日の音読に加えて、習っているところまでのかけ算九九を唱えて練習をする。（2学期では、すらすら（順九九）のみを行います。）
- ② すらすらとひっかからずに唱えられるようになったら、お家の人に聞いてもらい、「お家の人から」の左の欄に「日付（聞いてもらった日）、サイン」をもらう。（右側の欄は、3学期の逆九九、バラ九九の際に使います。）
- ③ お家の人から合格のサインがもらえたら、学校で先生に聞いてもらう。合格した人はその段の九九のところに先生から「合格シール」をはってもらう。
- ④ 2学期中に1～9の段の「すらすら」という枠に、全部合格シールがはられるようにする。

2年生 生活科「芋ほり」の様子の写真です！



